

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	力を惜しまない子どもを育てる。 ルールを守り、友だちと協力し、努力	○連携会議の開催 ○中学校ブロック合同授業研(12/6 中学校ブロック連携の日) ★ブロック内の保幼小中の研究授業に積極的に参加する。 ○連携教員による取り組み ★出前授業 ○天中ブロックスタンダードの検討	○H29の取り組みの継続 ○中学校ブロック合同授業研の開催 ○連携カリキュラムの再確認 ○連携教員による取り組み ★出前授業 ★英語授業の引継ぎ ○天中ブロックスタンダードの作成準備	○H30の取り組みの継続 ○中学校ブロック合同授業研の開催 ○連携カリキュラムの再確認 ○連携教員による取り組み ★出前授業 ★外国語授業づくり研究会の開催 ○天中ブロックスタンダードの実施
確かな学力の育成	一人ひとりの学びを保証し、よく考え努力する子どもの育成をめざす。	○「書く力の育成を中心にして、自分の思いを表現し、伝え合う力を高める」というテーマのもとに国語を中心に学力保障部で体制をつくり研究を進める。 ○上記テーマのもと国語授業研を3回実施し、教職員の研鑽を図る。 ○東奈良小の共通実践の充実 ○児童の学習意欲の調査・把握 ○児童の学習定着の調査・把握 ○個に応じた指導(分割・習熟度など児童の実態を踏まえ、内容を検討)	○前年度までの成果を検証し、平成31年度までを見通した研究テーマを設定する。 ○テーマに沿った授業研を実施し、年間を通した研修を充実させる。 ○東奈良小の共通実践の充実・積み上がった実践を集約し、次年度以降も活用できる形を残す。 ○児童の学習意欲の調査・把握 ○児童の学習定着の調査・把握 ○個に応じた指導(分割・習熟度など児童の実態を踏まえ、内容を検討)	○前年度のテーマを踏襲し、深めることができるよう研究計画を立てる。 ○テーマに沿った授業研の実施。前年度からの系統性のある研修を実施。 ○東奈良小の共通実践の充実・積み上がった実践を集約し、次年度以降も活用できる形を残す。 ○児童の学習意欲の調査・把握 ○児童の学習定着の調査・把握 ○個に応じた指導(分割・習熟度など児童の実態を踏まえ、内容を検討)
豊かな人間性を育む	一人ひとりを大切にし、ともに学びともに支え合える集団の育成をめざす。	○じぶんらしさを大切にするとともに他者への共感を持って仲間とつながる子どもの育成に努める。 ○多様な文化を受容し、平和を追求する子どもの育成に努める。 ○食育に関する取り組みをすすめる。	○一人一人を大切に、自立した集団作りを目指した取り組みを追求する。 ○国際理解教育・平和学習の取り組みをすすめる。 ○食育に関する取り組みをすすめる。	○一人一人を大切に、自立した集団作りを目指した取り組みを追求しながら、実践する。 ○国際理解教育・平和学習の取り組みをすすめる。 ○食育に関する取り組みをすすめる。
健康・体力の増進	自ら行動・表現でき、健康な体を育てることができる子どもの育成をめざす。	○体力テストの傾向を分析し、重点指導項目をつかむ。 ○茨木っ子運動Ⅱの活用 ○体育科学習カリキュラムの充実 ○児童の意欲が高まる体育科授業改善に向けた研修の実施。 ○前年度までの取り組みを継続し、児童の実態に合わせて改善を行う。 ○教材・教具の充実を図る。	○体力テストの傾向を分析し、昨年度と比較する。 ○茨木っ子運動Ⅱの活用 ○体育科学習カリキュラムの充実 ○児童の意欲が高まる体育科授業改善に向けた研修の実施。 ○前年度までの取り組みを継続し、児童の実態に合わせて改善を行う。 ○教材・教具の充実を続ける。	○体力テストの傾向を分析し、経年比較と3年間の総括を行う。 ○茨木っ子運動Ⅱの活用 ○体育科学習カリキュラムの充実 ○児童の意欲が高まる体育科授業改善に向けた研修の実施。 ○これまで実施した取り組みをまとめ、検証し、実施一覧を作成する。 ○教材・教具の充実を継続する。
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

(領域ごと)

① 話すこと・聞くこと	やや課題が残る結果であった
② 書くこと	やや課題が残る結果であった
③ 読むこと	概ね良好な結果であった
④ 言語事項	課題が残る結果であった

(問題形式)

① 選択式	やや課題が残る結果であった
② 短答式	課題が残る結果であった
③ 記述式	やや課題が残る結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
2 (二) 知りたいことを調べるために読むページを目次の一部から選ぶ
- ・もっとも正答率の低かった設問
1 (三) 調査の結果をもとに考えたことを3つの条件を満たして、まとめて書く
- ・もっとも無解答率の高かった設問
1 (二) 公衆電話の使い方や特徴について工夫して書いていることから、その工夫を選ぶ
3 (4) ことわざの使用例の正しいものを選ぶ
- ・もっとも無解答率の低かった設問
1 (三)

分析

目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができる事から、読書活動の継続的な取り組みの成果であると考えられる。

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかを見る問題について、正答率が低いが無解答率が低い問題でもあるので、「書く」取り組みの一定の成果が見られる。まとめる力をつけていくための学習の取り組みの継続と工夫を続けていく必要があると考えられる。

調査の結果をもとに考えたことを条件を満たしてまとめる力は、正答率の低さから、課題があると感じるが、無解答率が低い問題でもあるので、考えようとする気持ち、表現しようとする気持ちを強く持つことができている。無解答をなくす取り組みの成果はあると考えられる。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①数と計算	概ね良好な結果であった
②量と測定	概ね良好な結果であった
③図形	概ね良好な結果であった
④数量関係	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- もっとも正答率の高かった設問
1 (1) 長方形の紙を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ
- もっとも正答率の低かった設問
3 (2) 引き算の計算の決まりをもとに、割り算の計算の決まりを3つの言葉を使ってまとめる。
- もっとも無解答率の高かった設問
3 (2)
 - もっとも無解答率の低かった設問 (全て0%)
1 (1)
1 (2) 2つの合同な図形をずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてできる図形を選ぶ
 - 2 (1) 10年ごとの水の使用量のグラフからわかることを選ぶ
 - 2 (2) (1)のグラフから2010年の水の使用量は1980年の水の使用量の何倍かを記述

分析

全体的に、概ね良好な結果であった。簡単な計算問題は、正答率が高い。しかし、引き算の計算の決まりから、割り算の計算の決まりを文章で表す問題の正答率が一番低く、無解答率が一番高かった。計算の決まりを解釈して、適用したり、発展的に考察する力、文章に表す力に課題がある。また、除法の意味の理解も含めて、練習問題を通し基礎の定着を図りながら、示された式等の意味理解にも努める必要がある。

図形(台形)の性質の問題では、正答率が高かった。面積の求め方について、図形と式とを関連付け、筋道を立てて考察し表現することに課題がある。

グラフから変化の特徴を読み取り、問われていることと関連づけて考えることに課題が見られる。様々な場面でグラフに表されている内容を読み取る力を養う必要がある。

自分の考えを文字に表すことが苦手なようなので、数学的な考え方を表現するにあたり、文字にして書くという経験を多く積むことができるよう今後も配慮していきたい。

無解答率は、どの問題でも低く、今後も無解答をなくす取り組みを継続していきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

全体の平均正答率は低下傾向にある。学校全体としての学力向上の取組みを更に進める必要がある。教科ごとの正答率を見ていくと国語が大幅な低下傾向にある。記述式問題に対する対策と共に基礎的な内容の継続的な習熟が必要である。無解答率は昨年度から比較すると上昇傾向にあり、問題に最後まで取り組むことの大切さを今後も伝え続けていきたい。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は学力高位層が減少、学力低位層が増加傾向にある。エンパワー層は減少している。基礎基本を徹底した取組み、児童相互で交流しながら理解を深めていくという取組みを続けることで低位層の底上げを図ってきたが、今後もさらなる取組みの充実が必要である。また、児童相互で交流しながら理解を深める取組みは、高位層・低位層・エンパワー層の向上も見込むことができるので、今後も継続的に続け、工夫・改善を加えていく必要がある。さらに、子ども1人ひとりの学び方の違いに対応できる授業づくりも進めていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

本校児童の実態を常に把握し、今回の学力・学習状況調査の結果も踏まえ、学力向上に取り組んでいく。これまで本校が積み上げてきた取組みに加え、今回の学力・学習状況調査の分析結果にも対応できるよう取組みを進めていく。

- ・校内で学力研究授業を年2回実施し（今年度は学びのシンポジウムと兼ねて、2学年4クラスが公開授業）、教職員の授業力向上に努める。また、夏季の学力研修やまめちっち研修という短時間の研修を数多く実施することで教職員の研鑽を図る。
- ・年度当初と10月頃、「家庭学習・生活習慣の手引き」を発行し、児童に家庭学習を定着させ、よりよい生活習慣を身につけさせると共に、家庭への啓発を図る。
- ・学習規律の徹底と落ち着いた学習環境づくりを学校全体で構築する。（チャイム着席の徹底、学習用具の点検、話す・聴く姿勢など）
- ・習熟度別授業や分割授業などを柔軟に取り入れ、個に応じた指導体制を工夫する。
- ・授業の流れを示すサインポストを全クラス配布し、授業の流れを児童に明確に示す。
- ・「声のボリューム」「話し方名人」「聞き方名人」という「話す・聞く・話し合う」に関わる一定のルールを全学年に統一して示すことで、安心して伝え合う・聴き合う集団づくりに活かす。
- ・給食時間の放送で各学年の取組みを発信する「ならっ子タイム」を実施し、各クラスでもスピーチの機会を確保することで児童の表現力・発信力を養い、また聴く力を養う。
- ・朝の読書タイムを週1回程度実施し、読書の機会を確保する。また、地域の読み聞かせボランティアの方に読み聞かせに来ていただくことで本への興味関心を高める。図書館支援員と共に、児童の読書意欲が高まるような図書授業や図書室の環境整備を行う。
- ・国語教材を利用して、児童の語彙力を高める。語彙力を高めることに適した教材をピックアップし、表現豊かな話しことば・書き言葉の実践につなげる。実践結果は学力保障部会で検証し、有効な指導方法を追及する。
- ・学習サポーターなど学習を支援する人材の配置は、各学年・各クラスの児童の学習状況に応じて適切に時間割を組み、児童が安心して学べるよう有効活用していく。

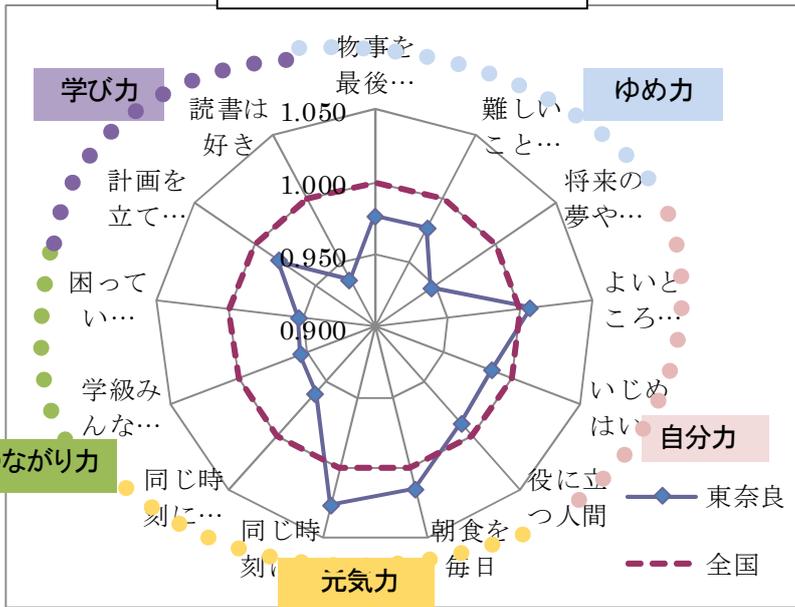
（今年度の全国学力・学習状況調査から）

＜国語＞基礎的な漢字の学習も同音異義語を重点的に生活場面に根ざしたイメージ化しやすい習熟を行う必要がある。理由を明確にして、自分の考えをまとめて書くという部分では、理科や社会科との関連など教科を超えた横断的な力がつくよう授業改善を行う。読書活動を充実し、多様な文章に触れ、書くことを取り入れた授業づくりを行い、読み書きへの抵抗を減らしていく。一方で、日常用いる言語に対する正確さも追求する。話し言葉、書き言葉について適切に使えるよう指導を行い、改善に導くことは言語力向上と共に、表現力・発信力の向上にもつながる。

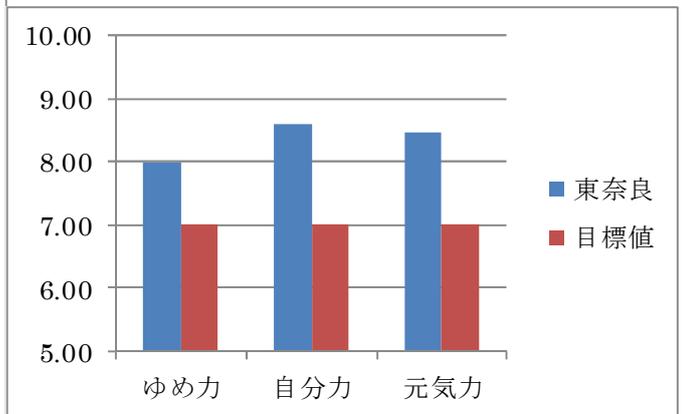
＜算数＞基礎的な計算力向上のため、様々な型の計算の復習ができるようなプリントの活用などの工夫を行う。また、計算ができることも大切にしながら、問われている意味が理解できるよう、数量の関係が理解できるように習熟の時間の確保を行う。そして、計算のしかたを解釈して適用したり、発展的に考察したり、わけを書くという経験を積み、自ら表現できる力も養えるよう授業改善を図っていく。日常生活に結び付けて、資料の特徴や傾向をもとに考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりできるように、教科を超えて、学習経験を積み上げていくことで自ら表現できる力を養えるよう授業改善を行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

自分には良いところがあると思っているが将来の夢や目標を描くことはできず、計画を立てて勉強する点においては、課題がある。

自分力（規範意識を持ち、自分をコントロールできる力）

総合的には目標値を上回っている。自分には良いところがあると思えるが、人の役に立つ人間になりたいと思える気持ちが低く、いじめに対する少し意識に課題がある。

元気力（健康・体力を保持増進できる力）

総合的には目標値を上回っている。同じ時刻に寝る、朝食を毎日食べているなど生活習慣においては、一定できている児童が多いが、同じ時刻に起きる児童の割合は低い。

ゆめ力（将来展望を持ち努力できる力）

総合的には目標値を上回っている。達成感の経験が少なく、努力し挑戦する力、将来の夢や目標をもてない児童が多い。

取組み

各学年の発達段階に応じて、将来の夢や目標について考えていく取組みを継続し、今後も、日々の学習、行事の中で達成感を感じられるよう、児童が主体となって活躍できる場を多く設け、自己肯定感を高めていくことが必要である。

自分力（規範意識を持ち、自分をコントロールできる力）

いじめはいけないという気持ちを日常的に育み、人権・平和学習を行う際にも、指導を続けていく。また、自己肯定感を高める経験を多く積ませ、一人ひとりの思いを大切にしていく。

元気力（健康・体力を保持増進できる力）

今後も、生活習慣の手引き発行、保健学習の充実、給食・保健だよりなどの充実を図り、家庭への啓発を進めると共に、児童への生活習慣の指導を行う。

ゆめ力（将来展望を持ち努力できる力）

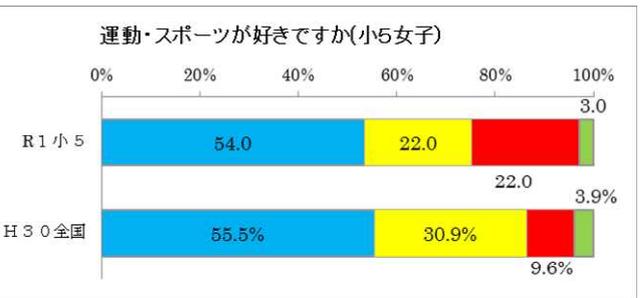
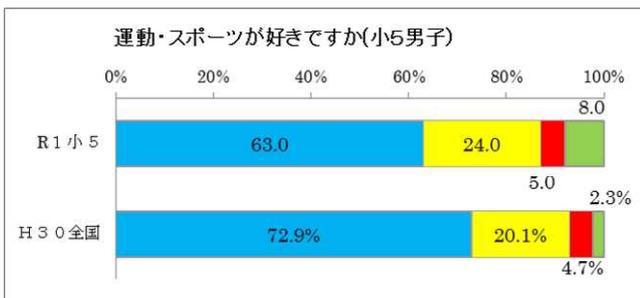
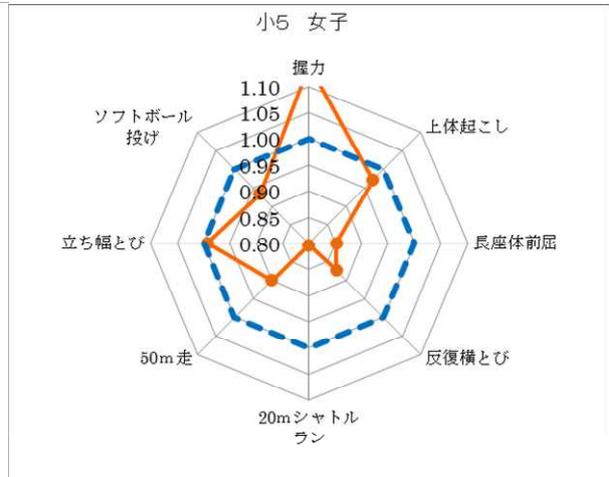
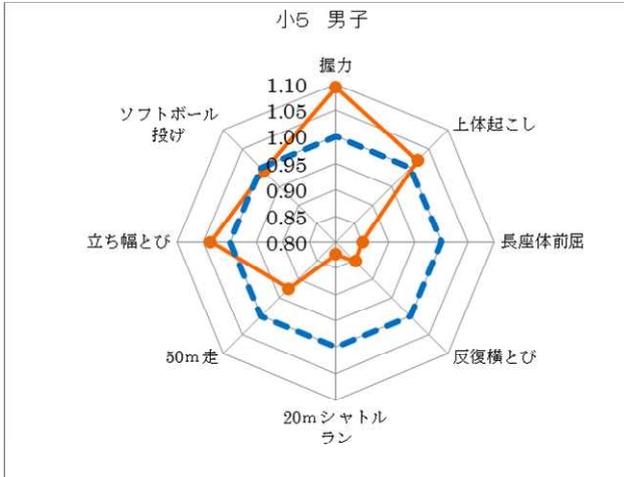
各学年の発達段階に応じて、将来の夢や目標について考えていく取組みを継続し、今後も、日々の学習、行事の中で達成感を感じられるよう、児童が主体となって活躍できる場を多く設ける。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)

女子 (小5)



分析

- 男女ともに握力は全国平均を上回っている。
- 男子は上体おこしと立ち幅跳びが全国平均を上回っている。女子は下回っている。
- 男女ともに長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走で全国平均を大きく下回っている。
- 女子はソフトボール投げて全国平均を下回っている。
- 男女ともに運動が好きという割合が減少している。

取組み

- 補強運動で「まげまげびん」を取り入れて柔軟性の向上をはかる。
- 補強運動でラダーを取り入れて敏捷性の向上をはかる。
- 人と比較するのではなく、自分の成長を大切にさせる指導をする。